

# 藤井しんすけ 議会ニュース 議会録

令和元年 国際文化観光・スポーツ常任委員会

令和元年 10月1日

藤井委員

初めに、ラグビーワールドカップの県内の盛り上げについて伺います。世界三大スポーツイベントと言われているラグビーワールドカップですが、今回初めてアジアで開催され、非常に誇らしいことでもあります。横浜国際総合競技場に行って、最初のニュージーランドと南アフリカ戦を拝見したのですが、すばらしい経験をさせていただきました。

そういった中で、県も担当の方がいらっしゃるって、県民全体に機運を盛り上げて、オリンピック・パラリンピックはもちろん、これから県のさまざまな施策にも、参考にできると思っています。一過性にならないように、しっかりと検証して、今後に生かしていかなければならないと思っています。そこで、県内の盛り上げについて何点か伺います。

初めに、県内の大会開催地である横浜以外にも、海老名や小田原でキャンプを行っていますが、具体的に、どのような取り組みをしているのか伺います。

ラグビーワールドカップ担当課長

まず、ロシア代表チームのキャンプ地となりました海老名市ですが、ことし6月には市民から公募を行いまして、えびなラグビーサポーターを結成いたしました。総勢395名のサポーターを中心に、海老名市におけるラグビーの盛り上げの活動をしています。

9月20日には、開幕戦の日本代表対ロシア代表戦の試合のパブリックビューイングを実施、また9月28日には、海老名市に滞在中のロシア代表チームとの交流会を実施したほか、今月9日にはバスツアーを実施し、ロシア代表チームを応援していきます。

次に、オーストラリア代表チーム、ワラビーズのキャンプ地となりました小田原市ですが、こちらも民間レベルでの盛り上げを図るため、地元の企業などを構成員としたラグビー・オリパラ活性化委員会を設置しまして、地元の機運盛り上げを図っています。

今回のラグビーワールドカップでは、既に小田原市内でのキャンプが終了しておりますが、9月11日には公開練習が行われ、大いに盛り上がったと聞いております。また、9月21日、29日には、ワラビーズ戦のパブリックビューイングを実施したほか、今月11日には静岡県のエコパスタジアムで行われる試合の応援バスツアーなどを実施。市民が一致団結して盛り上がっている状況です。

藤井委員

パブリックビューイングですが、海老名や小田原でも行われ、具体的に入場者数はどの程度か伺います。

ラグビーワールドカップ担当課長

海老名市では、開幕戦の9月20日の日本代表対ロシア代表戦のパブリックビューイング、これを海老名駅の駅間芝生広場で実施をいたしまして、市長や市議会議長も参加する中、約1,200人の参加者で大いに盛り上がったと伺っております。

小田原市では、9月21日のオーストラリア代表対フィジー代表戦と、同じく29日のオーストラリア代表対ウェールズ代表のパブリックビューイングが実施されました。雨天時でも影響を受けないように、小田原の地下街、ハルネ小田原で実施をしたため、スペースが狭く、21日は約150人、29日には約200人の参加となりましたが、設置した椅子席はほぼ満員状態で、集まった市民が通路まではみ出すほどだったと伺っております。

藤井委員

パブリックビューイングに参加されたそうですが、この大会期間中、県の皆さんと国際

競技場でもお会いしましたし、さまざまところで大変忙しいと思いますが、ファンゾーンの開催など、県内の市町村のキャンプ地の事業について、サポートする意気込みをお持ちだと思います。

例えば海老名市や小田原市と、県はどういったかかわり方をしているのか伺います。

ラグビーワールドカップ担当課長

キャンプ地では、チームとの交流会やパブリックビューイングを初め、さまざまな盛り上げの事業を実施しておりますので、人的、予算的に苦慮している状況はあります。県では、海老名市と小田原市に対しまして、負担金を支出して財政的な支援を行っています。

藤井委員

このキャンプ地以外の市町村との連携など、もし、それぞれの市町村が独自で取り組んでいることがあれば伺います。

ラグビーワールドカップ担当課長

大会期間中は、横浜市以外の場所でも、ラグビーワールドカップの感動を共有できるように市町村と連携し、各地でパブリックビューイングを計画しています。既に実施済みのものとしましては、9月29日に藤沢市の藤沢市民まつりと連携し、日本代表対アイルランド代表戦のパブリックビューイングを実施し、会場となりました藤沢市民を中心に、400の席がほぼ満員であったと伺っております。

今後は、今月5日に相模原市の小田急センチュリーホテル相模大野で日本対サモア戦、13日に川崎市のラゾーナ川崎で日本対スコットランド戦のパブリックビューイングを実施し、地元の方々と一緒にラグビーワールドカップの感動を共有していきたいと考えております。

また、市町村の取り組みでは、共同開催都市の横浜市を除く32市町村のうち、22の市町で、市庁舎などにラグビーワールドカップのパネルやのぼり、また横断幕の展示などを実施いただき、地元住民にラグビーワールドカップの盛り上げに協力いただいています。

藤井委員

32市町村のうち22市町との御答弁ですが、残り10の市町村が気になります。どのようになっていますか。

ラグビーワールドカップ担当課長

御協力と申しますか、実施をいただけないところの事情ですが、市庁舎のスペースが少ないなどの事情で、御協力いただけないのではなく、施設の状況によって実施できないと伺っております。

藤井委員

この大会期間中に実施予定のパブリックビューイングにつきまして、県とのかかわりはどのようになっていますか。

ラグビーワールドカップ担当課長

パブリックビューイングにつきましては、県と市の共催事業として実施しているので、開催都市枠のパブリックビューイングの放映権料の免除のメリットを共有できることになっております。また、イベントに集まった市民に、県が作成しましたノベルティグッズの提供などを行ってまいります。

藤井委員

ほかに県や市町村以外で実施するパブリックビューイングもあるのでしょうか。わかる範囲で教えていただきたいと思います。

ラグビーワールドカップ担当課長

県内の自治体以外でパブリックビューイングを開催する状況については大変多く、全て

を把握することは難しい状況にあり、幾つか話を伺ったものです。

まず、横須賀市のラグビー協会、こちらが10月13日の日本対スコットランド戦のパブリックビューイングを実施すると聞いております。また、民間レベルでも、横浜市西区のアソビル、また海老名のららぽーとなどが独自に主催する情報もあり、県内各市でパブリックビューイングが実施されることで、大会の盛り上がりがさらに加速していくものと考えております。

藤井委員

パブリックビューイングを中心にしてさまざまな取り組みがされており、県もしっかり支援をされているので、安心しておりますが、こうした盛り上がり県内の今後のラグビー振興に、どのようにつなげていくのでしょうか。

ラグビーワールドカップ担当課長

県では、これまでラグビーワールドカップの開催に向けまして、共同開催都市である横浜市との共同事業を初め、県内各市町村や大学、企業などと連携しまして、PRイベントやラグビー体験などを通じて、広く県民の皆さんにラグビーワールドカップの開催を周知してまいりました。そして、先月20日には、ついにラグビーワールドカップが開幕を迎え、当初予想していた以上の盛り上がりを見せています。

県としましては、この盛り上がりの火を消すことなく、県内のラグビー機運を維持していくために、これまでもラグビーワールドカップの機運醸成などに協力をいただいていた県ラグビーフットボール協会や、トップリーグチームとの連携を図り、ラグビーの裾野の拡大、またラグビーファンの拡大を図り、それらをワールドカップのレガシーとして残していきたいと考えております。

藤井委員

今回のこの日本大会の、4年に一度じゃない。一生に一度だ。のキャッチコピーですが、本当にアジアの開催から考えて、そのとおりだと思います。特に、日本対アイルランド戦、ほかの各試合でもそうだと思いますが、負けたチームがその勝者をたたえる花道のようなものをつくることは、本当に日本人的で、国民としても、スポーツ自体から学ぶこともあり、実際に誘致してくださり、準備し、それを支えていただいている皆様には、改めて感謝したいと思います。この機運は、オリンピック・パラリンピックを考えると、千載一遇のチャンスだと思うので、引き続き、頑張ってくださいと思います。

次に、東京2020大会の記録についてお伺いします。前回1964年に行われた東京オリンピックですが、私も小さかったので、記憶が定かではない部分はありますが、最近になって、テレビ番組を見て、昔の記憶が戻ってきました。先月には、新国立競技場のすぐそばに、オリンピックミュージアムが開館しました。1964年当時の日本代表選手が着用したジャケットや聖火リレーのトーチなど、話題になっているようですが、そういった記録を未来へ引き継いでいくことが大事だと思います。これから、来年の予算につながっていくことなので、確定前に要望として受けとめていただければと思います、質問させていただきたいと思います。

初めに、前回大会の1964年の大会の記録誌を県が作成しているのは伺いましたが、映像記録や、聖火で使ったトーチ、大会ののぼりは県として保管しているのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

記録誌以外では、大会で使用された陸上審判員の制服や帽子、東京オリンピックの記念メダルなどが県立博物館に保管されております。

藤井委員

そういった前回の大会で使われたさまざまなグッズ類は、大変貴重な資料で、来年の2020

大会に向けた機運醸成のために貴重なものですが、その活用方法を教えてください。

オリンピック・パラリンピック課長

8月に、テラスモール湘南で実施したオリンピックの1年前イベントにおきましては、前回の聖火リレーで実際に使用された、個人の方の品を借り受けまして、聖火のコーナーで、来られた方に実際に手に持っていて写真を撮ることをいたしまして、大変好評でした。休む暇もないぐらい好評でした。少し前の話になりますが、県立歴史博物館では、先ほど紹介いたしましたみずから保管しているもののほか、個人所有の聖火リレー伴走者五輪旗などを借り受けまして、よみがえる東京オリンピックのタイトルで特別陳列を実施しました。

藤井委員

今回の2020大会は先ほども言いましたが、記録はしっかりと残していただきたいと思っています。どのような形で記録として残していくのか、最後に確認したいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

今回の2020大会を記念して残していく記録のイメージです。まず、本県にゆかりのある選手の活躍の様子や、ボランティアで活躍していただいている方の笑顔など、大会期間中の雰囲気が伝わるようなものを残していきたいと考えております。

江の島でセーリング競技の開催が決定するまでの様子、ヨットハーバーの艇の移動や、漁業者の皆様との調整、江の島セーリングセンターの恒久施設の整備等の記録、2年前や、1年前などの記念イベントの様子、シティードレッシングなど雰囲気が伝わる風景、事前キャンプなど大会直前の様子など、大会に向けて徐々に盛り上がっていく様子を記録誌や映像として残していきたいと思っています。

この間、職員がさまざまな資料等を作成しておりますので、こうしたものを公文書として保存、記録していきたいと考えております。さらには、大会終了後、本県ゆかりの選手からお話を聞き取るなどしまして、そうしたことも残していけたらと考えております。

藤井委員

記録では、映像や写真集と思いますが、答弁にありました、さまざまな資料、実際に使われたグッズ、ポスターのような記念になるものもしっかり残していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

先ほど紹介したのは、2年前や1年前のイベントでイベントのポスターやチラシもつくっていますし、写真撮影用のマスコットパネルなど、掲示物を作成してきました。こうしたことを残していくのは、オリパラを開催した本県の歴史のみならず、県民の皆様実際に機運醸成で使用したものに触れてもらうことで、2020年の大会に向けて、県民がどのように大会を盛り上げていったのか、次世代につなげていく効果があると思っていますので、適切に活用していきたいと考えております。

藤井委員

テレビで聖火リレーの映像が残っているのをよく見ますが、その映像を見れば、当時の皆さんの服装、土地の雰囲気などが、また思い出されます。本県でもこの聖火リレー、パラリンピックも聖火フェスティバルなどを行っていますが、これらについて記録をどのように作成するのか伺います。

聖火リレー担当課長

オリンピックの聖火リレーにつきましては、組織委員会が公式記録として映像を作成し、その映像が各都道府県の実行委員会に提供されると聞いております。県実行委員会として、オリジナルの映像などの記録が作成できるのかは、まだ示されておりませんが、公式映像

の活用も視野に、県として何らかの形で記録を残していきたいと考えております。また、パラリンピックの聖火フェスティバルについても、映像などを活用して記録が残せるように検討してまいりたいと考えております。

藤井委員

今は車やドローンなど、さまざまな映像の手法もあると思うので、工夫を凝らしていただいて、県としてどこまで公式的な映像が撮れるか、オリンピック実行委員会とのいろいろな兼ね合わせもあると思いますが、県民の貴重な財産になると思います。

人間の記憶は、曖昧なところがあって、しばらくするとまたすぐ忘れてしまうこともあります。記録を残すと、記憶がよみがえると思うので、困難はあると思いますが、未来の子供たちのためにしっかりと記録を残していただきたいことを要望して終わります。